

□ 電線類地中化計画



<東京都 晴海通り>

日常生活の中で、何気なく目にしている電柱。その電柱に架かる電線によって、私たちの生活に欠かすことのできない電気や、電話・ケーブルテレビ・インターネットといった通信手段が供給されています。

しかしながら、電線によって空が遮られたり、電柱によって歩道が狭くなったりすることも事実です。

これらを地中化することで、電気・通信を供給しながら、良好な道路空間や街並みを形成することができます。

弊社では、電線類地中化計画において、新しい地中化方式をいち早く、積極的に取り入れております。

1 電線類地中化によるメリット

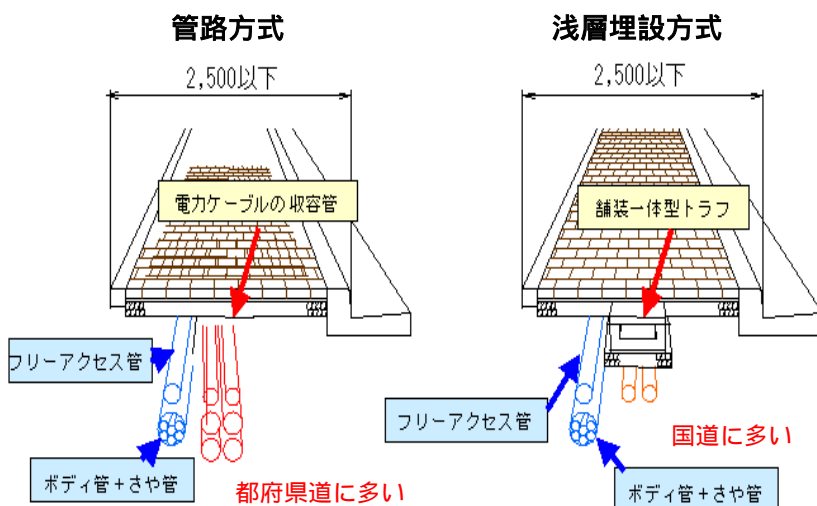
電線類を地中化することにより、以下のようなメリットが生まれます。

都市景観が向上します。

安全で快適な歩行空間が確保されます。

都市災害を防止し、情報通信ネットワークの信頼性が向上します。

2 現在の整備手法 (次世代型電線共同溝方式)



次世代型電線共同溝方式に適した道路条件
歩道幅員が狭い道路 (概ね 2.5m 程度)
住宅地域等、沿道に低層建築物の建つ道路

電線類地中化は、整備が先行した大市街地・幹線道路は歩道が広く、従来型と呼ばれる電線共同溝方式での整備が可能でした。

しかし、これからの電線類地中化の対象となる道路は、住宅地域や商店街、歴史的な町並みを保全すべき道路等、電線類を地中化するために収容する空間が限られるものが多くなります。そのため、地中化区間の状況に合わせた新たな管路構造が必要とされるようになりました。

このようなことから、電線類地中化には、管路構造方式の組合せ、車道への設置等、豊富なノウハウを要求されます。

弊社では、新たな構造形式である次世代型電線共同溝方式についても、これまでの電線類地中化業務で培ったノウハウを基に、いち早く計画・設計に取り入れ、多くの実績を残しています。

3 特殊事例 (ソフト地中化方式)



<江戸川区平井地区>



<柱上トランス (上) と街路灯 (下) >

弊社設計事例

ソフト地中化方式に適した道路条件
歩道幅員の著しく狭い道路 (概ね 2.0m以下)
商店街、歴史的な町並みを保全すべき道路、等

電線類地中化事業では、沿道景観との調和や一体感に配慮し、道路設計との整合を図ることが求められます。商店街や歴史的な町並みを保全すべき地区の道路整備においては、道路景観に配慮した設計が重要です。

弊社は、道路だけではなく駅前広場等の電線類地中化業務の実績も多数有しており、総合建設コンサルタントとして、今後も景観に配慮した設計を心がけてまいります。



<電力地上機器を案内板の下に設置して、景観に配慮した参考事例：京都府宇治市>



<街並みに調和した参考事例：奈良県橿原市>

4 関連業務実績

- ・国補緊道第18-08-620-0-052号電線共同溝詳細設計業務委託
(平成18年度 発注者：茨城県 施工場所：赤塚駅北線、水戸市赤塚)
- ・電線共同溝予備設計 (外苑東通り)
(平成18年度 発注者：東京都 施工場所：港区六本木三丁目地内から同区六本木五丁目)
- ・東京都中央区電線共同溝設計委託 (ソフト地中化方式)
(平成15年度 発注者：中央区 施工場所：中央区日本橋室町一丁目)
- ・東京都江戸川区電線共同溝設計委託 (ソフト地中化方式)
(平成13年度 発注者：江戸川区 施工場所：江戸川区平井一丁目、平井四丁目、小松川四丁目)



セントラルコンサルタント株式会社

<http://www.central-con.co.jp>